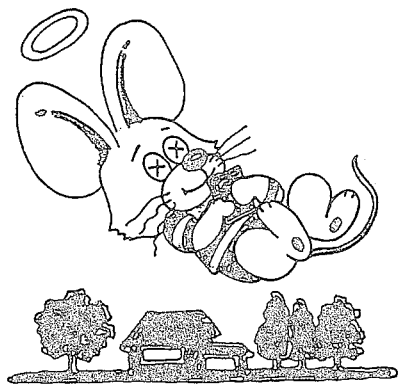


# 海外農業開発

MONTHLY BULLETIN OVERSEAS AGRICULTURAL DEVELOPMENT NEWS

1 9 9 3 4

# ネズミ退治に抜群の効果!!



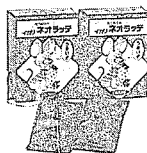
## ○チュークリン（強力粘着剤）



強力粘着剤を使用したネズミ捕り。  
ネズミの動きで自然にくるまりま  
す。

寄生するダニやノミなども同時に  
処理できるのでたいへん衛生的です。

## ○イカリネオラッテ（殺そ剤）

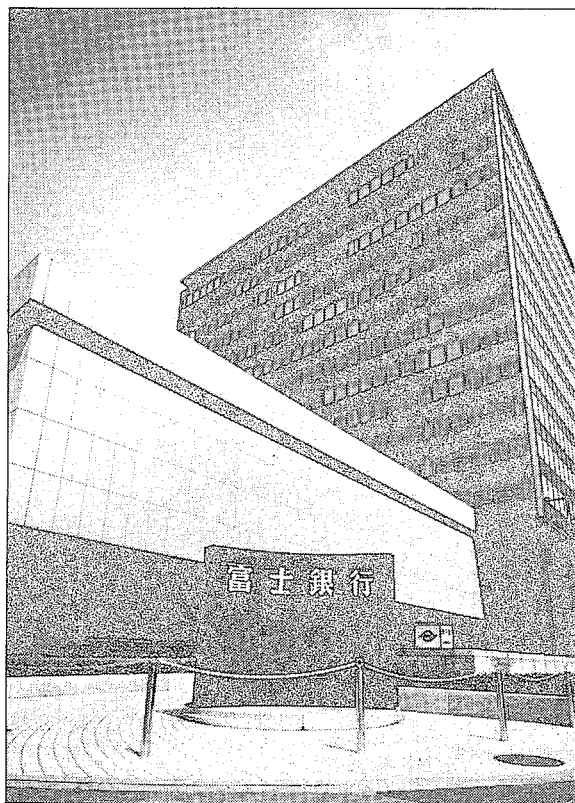


ネズミの嗜好物が入っているので  
効果は抜群。耐水性の袋に入っ  
ているので濡れている場所でも使用  
できます。

## イカリ消毒株式会社

本社／〒160 東京都新宿区新宿 3-23-7

☎03 (3356) 6191(代)



## 将来への礎石。

いま未来を見つめて、〈富士〉はみなさまのお役  
に立つよう力をつくしています。経済の発展に資  
すべく、多様化するニーズを的確にとらえて歩  
みつづける〈富士〉。暮らしに、経営に、多岐に  
わたる〈富士〉のサービスをご活用ください。

みなさまの

 富士銀行

# 目次

1993—4

|                       |   |
|-----------------------|---|
| マラウイ共和国の野菜生産振興事情..... | 1 |
|-----------------------|---|

## トピックス

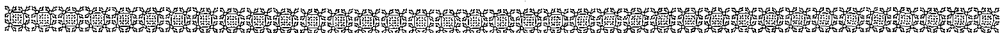
|                                     |    |
|-------------------------------------|----|
| 東マレーシア・サバ州が丸太輸出削減・凍結で最終的に政府と合意..... | 14 |
|-------------------------------------|----|

## 会合

|       |    |
|-------|----|
| ..... | 15 |
|-------|----|

|                      |    |
|----------------------|----|
| 対日輸出有望産品発掘専門家募集..... | 16 |
|----------------------|----|

|                            |    |
|----------------------------|----|
| 「海外農林業開発協力促進事業」制度のご案内..... | 17 |
|----------------------------|----|



## マラウイ共和国の野菜生産振興事情

国際じゃがいもセンター専門家 江口 義弘  
(前青年海外協力隊技術顧問)

## □はじめに

昨年、12月上旬に筆者はアフリカ南東部に位置するマラウイ共和国で野菜の生産振興を骨子とした農業開発プロジェクトの事前調査を行った。

対象地域は首都Lilongwe市の南方約70kmのLobi地区である。わずか10日ほどの短い調査ではあったが、新生マラウイ国のかかえる農業問題、野菜産業の現状および先進各国の農業技術協力の実態をみることができた。

マラウイ湖の西方に位置する海拔1,000mの高原は、東西約70km、南北約660kmに展開し、広大かつ平坦である。これまで小規模な畑作自営農民は鋤一本でこの大地を耕してきたわけだが、新たな農業開発政策とプロジェクトが進むなかで、彼等の将来の行方が気になるところである。

## 1. 農業の実情

(表1) 主要輸出入品目 (1987年推定)

(単位: 100万SDR)

| 輸 出  |       | 輸 入     |       |
|------|-------|---------|-------|
| タバコ  | 142.9 | 工業用イアット | 78.1  |
| 紅茶   | 21.5  | 消費物資    | 34.9  |
| 砂糖   | 19.7  | プラント・機械 | 31.7  |
| コーヒー | 7.1   | 輸送機械    | 31.0  |
| 落花生  | 7.1   | 石油製品    | 27.2  |
| 豆類   | 5.7   | 建築材     | 12.9  |
| 綿花   | 1.3   | 部品・工具   | 7.9   |
| その他  | 14.4  | 繊維製品    | 5.0   |
| 計    | 219.6 | 計       | 230.3 |

(注) 輸出は再輸出を含まない。

(総理府統計局1991)

(表2) GDPの産業別構成

(1978年価格、単位: 100万MK)

|             | 1989年*        |
|-------------|---------------|
| 農業          | 329.7 (35.2)  |
| 小規模農業       | 247.4 (26.4)  |
| 大規模農園       | 82.3 (8.8)    |
| 製造業         | 119.3 (12.8)  |
| 電気・水        | 21.1 (2.3)    |
| 建設業         | 41.5 (4.4)    |
| 流通          | 110.2 (11.8)  |
| 運輸・通信       | 51.2 (5.5)    |
| 政府サービス      | 144.9 (15.5)  |
| 金融・サービス・その他 | 117.5 (12.5)  |
| 合計          | 935.4 (100.0) |

(注) カッコ内は% \*は暫定。

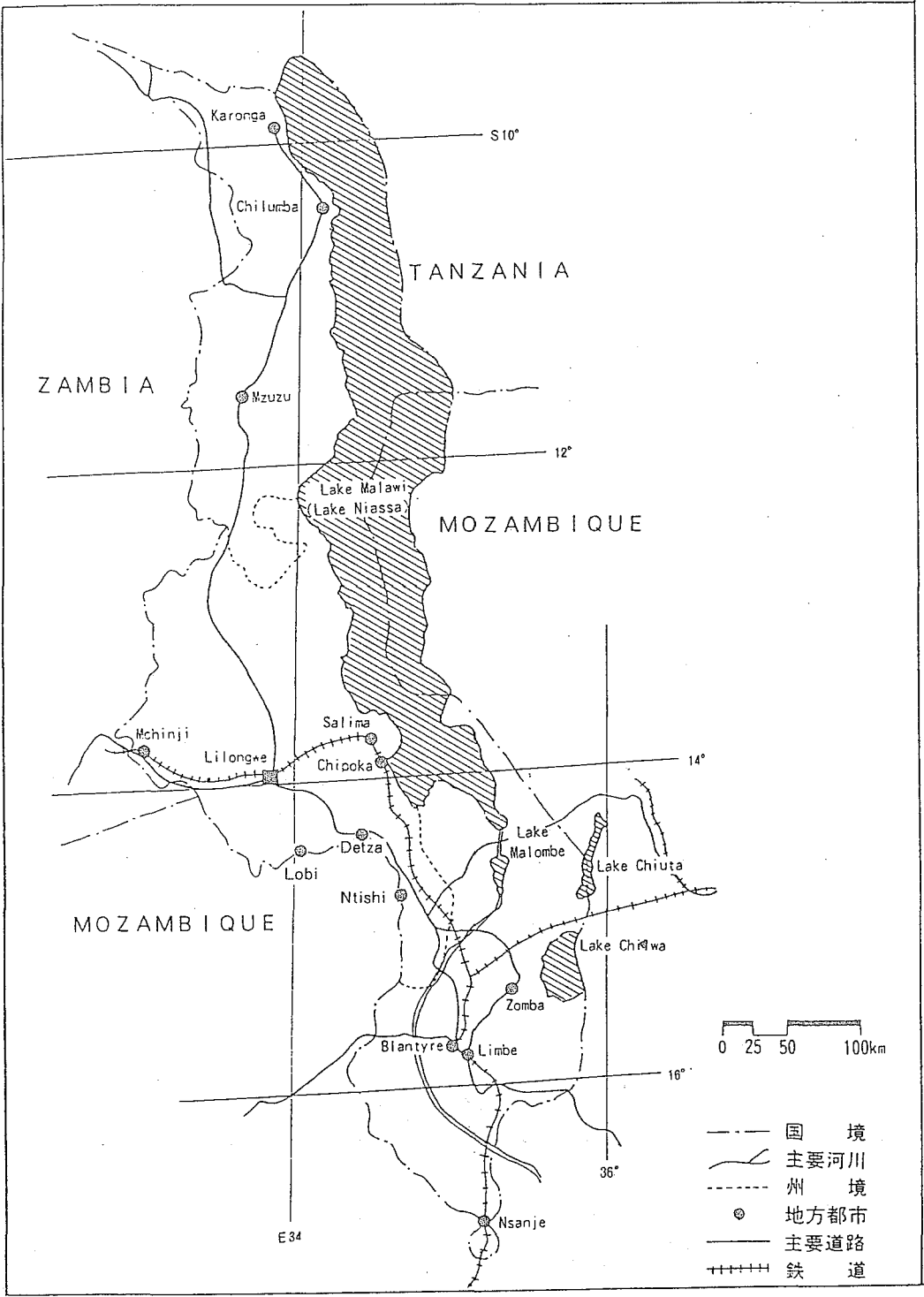
(総理府統計局1991)

上表に見られるように、マラウイは典型的な農業国であるが、小規模な農具を除く近代的な農業資機材は輸入に頼っている。

紅茶、砂糖、タバコ等の輸出商品作物の栽培技術は、プランテーションはもちろん、小規模農家でも相対的に進んでいるようであるが、とうもろこし、落花生を主作物とする小農は農業人口の大部分を占め(総人口の80%)、貧弱な資本および装備、低い知識と栽培技術、長年にわたる無肥料に近い継続的な耕作の結果、瘦薄な畑土壌となり“低収量”を余儀なくされている。

農業省はこのような実情を克服するため、Banda終身大統領を農業大臣にいただき、“単位面積当たりの収量の増加”を最大の目的として、小規模農家の農業振興業務に取り組んでい

マラウイ共和国概略図



る。

具体的には、①農業経営、②農業機械、③畜産、④農産、⑤園芸、⑥水産、⑦林業等の研究、⑧指導奨励、⑨資機材援助、⑩融資、等を通じ多面的に改善をはかっているが、農作物では主要作物のとうもろこし、落花生、単位当たりの収量増のための優良品種および優良種子の利用、牛耕、深耕、合理的施肥、適期除草の実施奨励に力点を置いている。

現状では、とうもろこしと落花生の栽培面積はかなりの広さをもつが、単位面積当たりの収量は低い。

Lobi地区の主要農作物の播種は10月の雨期到来とともに始まり、4～5月の乾期にかけて収穫される。これらの畑は乾期には休閑となり、わずかに残る低湿地で野菜その他の作物が作られる。

## 2. 野菜産業の現状

とうもろこし、落花生に比べると野菜産業は相当遅れており、まさに近代化の入口にあるとさえいえる。関係者は異口同音に“この国では野菜に関する科学も研究も技術も等閑視されていた。野菜研究は著についたばかりで、専門の研究者の数は少なく、普及員にいたってはほとんどおらず、いても程度が低く期待はできない”という状況であった。

このようになりかなり悲観的な状況ではあるものの、次に述べるような野菜産業の新しい胎動を見るとき、人口の増加、他産業の振興、都市生活者の増加にともない、この産業が近代化され盛大になる日はそう遠くないとも考えられる。

## 3. 野菜市場の現状

Lobi周辺の市場はきわめて小さい。また、店頭の野菜の量、品数は少なく品質も劣っており、現状は路上マーケットからやや進んだ程度と考えてよい。しかしながら、人口2万人といわれる首都Lilongweの中央マーケットは我が国の土浦、水戸等の市場より小さかったが、整った形態と業務内容をもち、14の衛星マーケットを首都の周辺部にかかえており、仲買人、卸売り商も存在していた。さらに綺麗に並べられた店頭の野菜の価格には品質差による高低が付けられていた。

これらのマーケットの規模と機能は、いずれ先進国のそれと同じ道を辿りながら発展していくものと予想させる。

優先する野菜は、ここでもトマト、たまねぎ、じゃがいも、キャベツで、庶民の日常野菜としては現地に適応した白菜、カラシナ、ケール、カボチャ等の葉菜がみられた（写真1、2、3、4参照）。

## 4. 野菜生産地の現状

きわめて小規模なLobiの市場に対応したLobi周辺の野菜生産者の菜園の規模は当然のこととして小さく、一作物なん株とただちに数えられる程度であった。また、その栽培技術、生産性はかなり低く、品質も劣っていた。

これに比べ、Lilongweの中央市場への主要出荷地であるDetza地区に見た先進野菜農家の生産状況はきわめて対症的であった。この農家は中央市場から90kmも離れてはいるが、圃場を国道脇に持ち、傾斜した70アールに広幅の高畝を等高線に沿って作り、トマトとキャベツ

を植えていたが、作況は良く技術水準は我が国の中程度の水準に達していると診断した（写真5、6参照）。堆肥を作り、化学肥料も施し、深耕し、防除も行っている。畑の下手には水量豊かな三本の井戸さえ持っていた。大変立派な邸宅で、それは彼の18年にわたる野菜耕作のたまものといってよい。

この一例が示すように、Detzaとその南に位置するNtcheuは、他の産地に比べて気温がやや低く、雨量も多い等自然条件に恵まれているために、温帯野菜の生産に適し生産性も高く産品の品質も良い。後発地のLobiは、既に大きく水をあけられている。

大野、奈良・青年海外協力隊員が中央市場で行った聞き取り調査によれば、この他にも名の通った産地がMchinji（Lilongwe北方100km）、Dowa（同北方40km）、Ntishi（同北方40km）等にあるという。

Bunda農科大学を見学したおり、彼等が間接的に指導する野菜生産者グループの活動を視察したが、現場には40～50名の熱心な生産者が待ち構えており、筆者は予定外のキャベツの栽培の話をさせられてしまった（写真7参照）。場所はLilongwe中心から20～30kmほどのところの大きなDambo（低湿地）の一角で、比較的良好なキャベツをかなりの規模で作っていた。ここは、典型的な近郊園芸地帯である。

彼等の技術、恵まれた立地からみても、Lobiの野菜生産の現状は、此处とも勝負にならない。

また、Lilongwe市の小市場でみた庶民向けの在来葉菜類のほとんどは、市場から20km圏内の小農によって作られ、自転車あるいは徒歩で毎朝、最寄りの市場に持ち込まれているのである（写真8、9参照）。

ここで野菜生産状況の視察結果を総括をすると、マ国の野菜産業の発展段階は、プリミティブとはいえ、産地形成に関する普遍的な原理が作用している。

すなわち、市場の規模と品質への要求に生産地は規制されており、地形が単純なマ国では市場からの距離と販売の容易さが産地形成に最大の影響を持ち、さらには生産する野菜の種類を決め、次いで気温と降水量、水利の違いが産地の分化にあずかっている。

首都近郊の軟弱野菜の生産や、遠隔の適地における輸送性の高い野菜（トマト、キャベツ、たまねぎ）の生産、あるいは乾期における低湿地の利用などは良い事例である。

以上に照らして見ると、Lobi地区で大がかりな野菜生産の増加に関するプロジェクトを早急に組むのは、説得性に乏しく、いかにも時期尚早と考えざるを得ない。

これに関連し、Lobi地区並びにLilongwe市周辺で先行している他の国や機関による野菜栽培等の援助、協力活動を知るべく視察をしたので、以下に記したい。

## Lilongwe市周辺の協力活動

### 1) 台湾

台湾が行っている農業協力活動は、18年に及ぶと言われる。

まず、彼等は賢明にも得意とする野菜生産技術を、首都内の水利の便の良い場所に設置した小規模の圃場に展示するとともに、台湾産の品種を使い、見事に出来た野菜をマ国高官に贈り続けて来たのである（写真10、11、12、13）。

彼等の技術水準は我が国の先進野菜専業農家のそれに匹敵し、残念ながら青年海外協力隊

員の一般的な技術水準を越えている。

かくして、台湾の農業技術はマ国の高い評価を受け、今日では数千haに及ぶ水田での稲作栽培指導の委託を受け、さらにはマ国高冷地でのキャベツ採種事業をも委嘱されているという。

## 2) アメリカ・イスラエル

アメリカとイスラエルの共同援助に、Lilongwe近郊の灌漑プロジェクトがある。二カ所に設置されているといううちの二カ所を見た。

都心から約20kmのところにある同プロジェクトは通年水をたたえる河川の岸に接しており、約5haの畑が作られていた。国道にも接しているので、野菜生産には絶好の場所である。筆者が訪れたおり、約10mの高さをディーゼルポンプで揚水し、約250mほどの長さの配管のスプリンクラーで灌漑していた。

スプリンクラーならびにポンプの設置と使用方法は、25名の生産者に移転されていたが、育苗圃のトマト、たまねぎ、定植後のキャベツの生育は決して良くない。

これは援助側に栽培のソフトを指導出来る技術者がいなかったのか、あるいは指導が不完全に終わったからなのか原因は定かでないが、現状ではやや“猫に小判”といった印象を抱いた。

移管後も継続して指導を行っていたはずのマ国野菜関係技術者の力量を垣間見たようで、筆者は改めてマ国における「標準野菜栽培技術の確立」の重要性を確信した次第である。

## Lobi周辺の協力活動

### 1) NGO (アメリカ)

Lobiに事務所を持ち、Lobi地区を中心に広く活動中のモザンビーク難民救済団体が行っている家庭菜園普及活動は印象的であった。

モデル農家の庭先に30㎡ほどの菜園を囲わせ、40～50cmまで深く起した土に堆肥を深くたっぷり入れて幅の広い高畝とし、アマランサス、ケール、ふだん草を作らせていた。これ等は、筆者が考えていた当地向きの家庭菜園用野菜でもあったのである(写真14参照)。

指導に当たっている女性は非常に熱心で、家庭菜園用作目の選択は当を得ており、栽培方法も理にかなう感服した。多分、相当の経験を積んだ技術者の指導を受けているに違いない。

### 2) FAO

活動現場は見られなかったが、特記すべき活動としてFAO専門家のとうもろこし慣行栽培改善の現地施肥試験がある。事の些細は判らないが、“収量が4倍になった”とマ国関係者は興奮気味に話していた。

あり得ることである。筆者等もマラウイに来る前から、同様のとうもろこしの経済的施肥法に関する試験の構想を持っていたので、先を越されたとの気持ちはいなめない。今後とも彼等の活動に注目しつづける必要があるだろう。

### 3) ICRISAT

筆者も早くから着目し(昭和39年、在北タイの甘蔗農場の緑肥作物として初めて活用した)、野菜隊員に現地試験を推奨していたビジョン・ピーの、品種改良をも加味した大々的な緑肥としての実用試験を、国際半乾燥地農業研究センター(ICRISAT)は、なんとマ国のChitedze農業試験場との共同研究に持ち込んでいたのである。成果が出れば、全アフリカ畑作農民に取って画期的な福音となる野心的なプロジェクトである。



以上のように、ポイントをおさえた効果的な協力活動が各国によって、随所に繰り広げられているというのが現状であるが、調査団はこれらに加えマ国の野菜生産ならびに流通事情を踏まえ、結論を出した。

(表 3) 主要作物の国別比較

|         | 農耕地<br>万ha | 農業人口<br>万人 | とうもろこし<br>面積 収量<br>万ha kg/ha | 落 花 生<br>面積 収量<br>万ha kg/ha |
|---------|------------|------------|------------------------------|-----------------------------|
| マウライ    | 238        | 606        | 122 1,197                    | 28 686                      |
| エジプト    | 258        | 2,167      | 90 4,542                     | 1 2,200                     |
| U. S. A | 18,487     | 679        | 2,354 7,000                  | 66 2,779                    |

(F.A.O Production year book 1988)

(表 4) 主要野菜の国別生産性比較

単収 (t/10a)

|      | トマト | じゃがいも | キャベツ | たまねぎ |
|------|-----|-------|------|------|
| マウライ | 0.9 | 0.3   | 1.1  | 0.4  |
| ケニア  | 0.3 | 0.9   | -    | 0.4  |
| 日 本  | 5.4 | 3.2   | 4.1  | 4.1  |

(F.A.O Production year book 1988)

(表 5) 土壌分析結果例

(mg/100g)

|                    | PH  | EC Valuem | アモニア<br>N | ショウサン<br>N | リンサン | カルシウム |
|--------------------|-----|-----------|-----------|------------|------|-------|
| 標準値<br>(日 本)       | 7.0 | 0.5       | 10        | 7          | 30   | 250   |
| 大野宅<br>菜園(施肥)      | 7.3 | 0.46      | 25        | 5          | 150  | 200   |
| Lobi, Dambo<br>菜 園 | 5.5 | 0.06      | 1         | 1          | 10   | 50    |
| Lobi<br>果樹園        | 5.0 | 0.14      | 1         | 1          | 5    | 50    |

(大野、奈良部 1992、富士平工業 Dr. Soilによる)

## 考察および結論

マ国の農村の振興に当たっては、マ国農業省が指導するごとく、そこでの“主要作物”の単位面積当りの収量を高めることが、最優先するという考え方に異論はない。

また、経営の多角化について、まず野菜作の導入と振興という進め方も間違いないと思われる。

従って、今後計画されるプロジェクトは、上記のマ国の基本方針に添うことが望ましく、同時にそのプロジェクトは、我が国、あるいはJICAの農業関係の活動ともみなされると予想されるので、相応の風格を持つ必要がある。

もとより、先発した他国の同一分野における優れたプロジェクトの後を追う必要はないが、その成果を学び、協力して発展させるといった姿勢は堅持するのが望ましい。

あくまでも、プロジェクトの運営主体はマ国であるから、プロジェクトのメインテーマはマ国政府関係者の意欲を永くそそり、気力を起こさせるに足る魅力を備えていなければならない。また、プロジェクトの成果が小農民に広く裨益するところがなければならない。

そもそも我が国では、江戸時代末に、既に油障子を使った温床があり、促成栽培すら行われていたといわれているし、練馬大根、金町小燕等に名が残るごとく、都市近郊には高度に発達した軟弱野菜の大産地があった。このような進んだ生産基盤の上に、食習慣の変化に応じた戦後の西洋野菜の急激な、消費増に対応した生産の増加、品質の向上がはかられたのである。

生産者の意欲とあいまって新設された国や各県の園芸試験場の研究成果と、これを普及する数千人の普及員、農業協同組合技術員の指導活動が生産増加と品質の向上に大きく貢献した。

事実、大半の協同組合には、その組合員が生産する重要野菜の、詳細な標準栽培体系が確立されており、組合員たる生産者は、その体系と指導に従って栽培しているのである。日本ほど情報の伝達と教育の進んだ国においてすら、このようなシステムで野菜を生産しているのだから、標準栽培体系もなく、ないない尽しの途上国で農業が振るわないのは無理もない。

マ国の野菜研究は端緒についたばかりで、普及、指導には程遠い。乾期の野菜生産でもっとも重要と思われる通称「Dambo」といわれる低湿地は雨期には冠水し、乾期には水源に近い低地になる。ここは有機質が多い酸性土で一般の畑土壌とは異なる性質を持つ。Damboの土壌特性と、そこでの野菜の栽培法の研究もいまだにされていない。

これらの点をふまえ、調査団はマ国JICA事務所および派遣中の青年海外協力隊野菜隊員と図った後、下記テーマを核として、しかるべきプロジェクト案を作るよう団長コメントとして、マ国関係者に提案した。

これは、自主性の高いプロジェクトがマ国主導によって、形成されんことを願ってのことである。

## 提案したテーマ

### 1. 家庭園芸の改良

- 1) 優良穂木の高接ぎによる在来マンゴーの品質と生産性の改良（マ国のマンゴー生産量は膨大である）
- 2) マンゴー果実の多面的利用法の開発（未熟果、干果、ジュース等）
- 3) 東南アジアで確立された有望葉菜の導入と必要な現地栽培試験（ツルムラサキ、カンコン、カイラン）

4) 在来葉菜の採種（ハクサイ、マスタード、フダンソウ、ケール）

## 2. 慣行農法の改良

1) 雨期における主要野菜（トマト、キャベツ）ならびにとうもろこし、落花生の総合的な慣行農法改良に関する現地適応試験

2) 乾期野菜栽培の拠点となるDambo土壌の総合的調査

3) 乾期におけるDamboでの、主要野菜の栽培方法に関する現地試験ならびに標準栽培方法の確立

4) 大豆、落花生、その他豆類、保証種子の生産

（マ国中央農業試験場副場長から特に懇望され加えた項目）

## 3. 先進技術の適用

1) ジャガイモ実生種子系統の現地での生産力検定

（マ国に優良ジャガイモ種子生産システムはまだない）

2) 寒冷紗で被覆した簡単な施設下での質の高い種ジャガイモの生産

3) 現地生産された種子を用いてのたまねぎのセット栽培に関する試験

（マ国で、たまねぎ種子の生産は行われていない）

## □おわりに

期待するプロジェクトが適地に設置され、上記テーマに沿った現地試験が行われて、随時明らかにされる標準栽培技術の中の個別技術を“作物の生育差”で展示して行けば、いわゆる“適性技術”は自ずと普及するのではあるまいか。

調査に先立ち、事務局派遣二課では、Lobi地区調査に隊員1名、プロジェクト形成準備にシニア1名を派遣しているが、去る1月15日、在マ国JICAサイドとマ国農業省、Lilongwe地区農業振興関係者との間で、調査団が残したコメントをめぐってプロジェクト形成に関する最初の会議が持たれる運びになったようである。

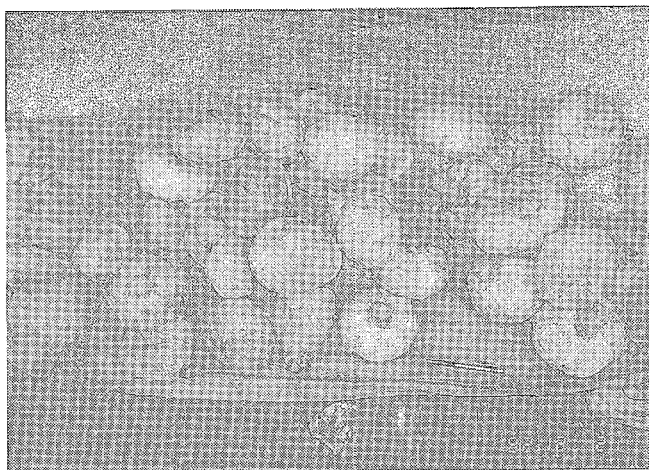
計画の順調な発展と隊員の活躍を期待したい。

また、Lobi地区には、前記、家庭菜園に関するアメリカのプロジェクトの他にドイツが協力した家庭養鶏、婦人活動による搾油プロジェクト、マ国農業省による小規模植林用の苗圃運営があった。

いずれも適性規模で運営されており申し分ないが、もし請われれば側面からの協力や支援も考えられる。

しかし、建設を完了し稼働を待つ病院とやりくりをしながら活発に活動中の学校への協力は、この地区への協力としては、さらに有意義であろう（写真15、16参照）。

最後に、本調査に際し、終始、誠意を持ってご協力下さった、マ国農業省ならびにJICA事務所関係者および派遣中の青年海外協力隊の園芸、野菜隊員に深くお礼申し上げる。



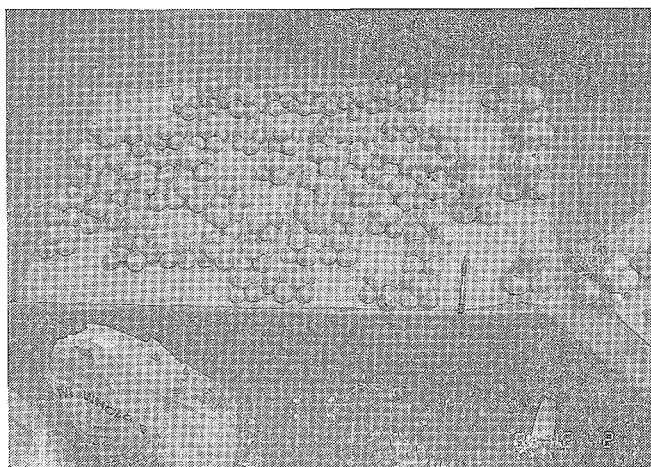
(写真1)

Log地区のマーケット。小さなキャベツは痛んでいる。



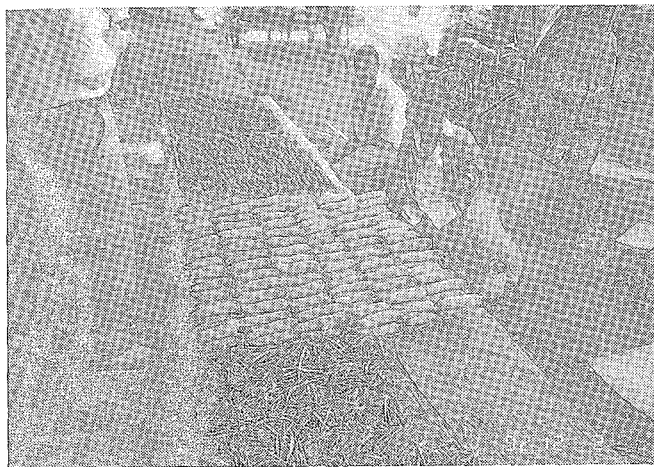
(写真2)

良く整備されているLog市の中央マーケットの一角。



(写真3)

Log地区のマーケット。トマトの径は3〜4cm。



(写真4)

「Lolo」地区の中央マーケット。  
人蔘も綺麗に洗われ、大きさを揃えて並べられている。



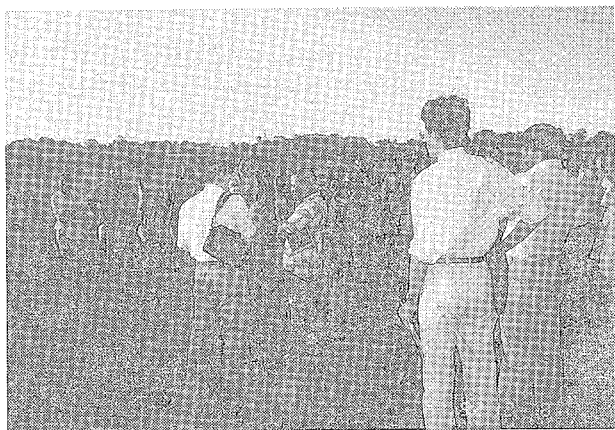
(写真5)

「Lolo」地区の低湿地に設けられた菜園にみる非結球白菜、トマト、ケール。



(写真6)

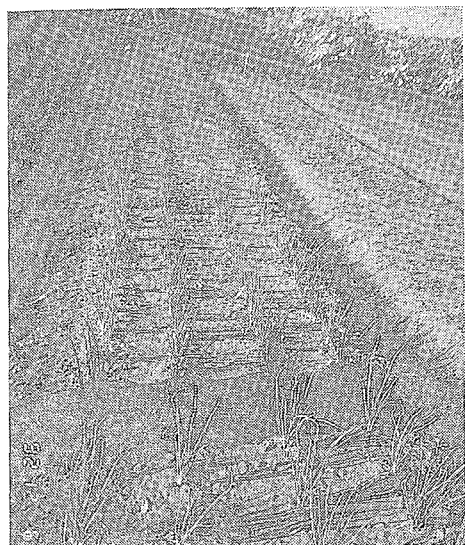
Dentsu地区の先進野菜専業農家のトマト。



(写真7上) 広い低湿地で栽培されている  
キャベツ畑 (Bunda大学指導)。

(写真8中) Detzas市場に並ぶたまねぎ。

(写真9下) 女性の手で市場に持ち込まれる  
葉菜類。



(写真12下)

トマトの育苗。育苗技術はまだ低い。

(写真11中)

計画的に作付される野菜。

(写真10上)

川からポンプアップした水を畝間に灌漑。

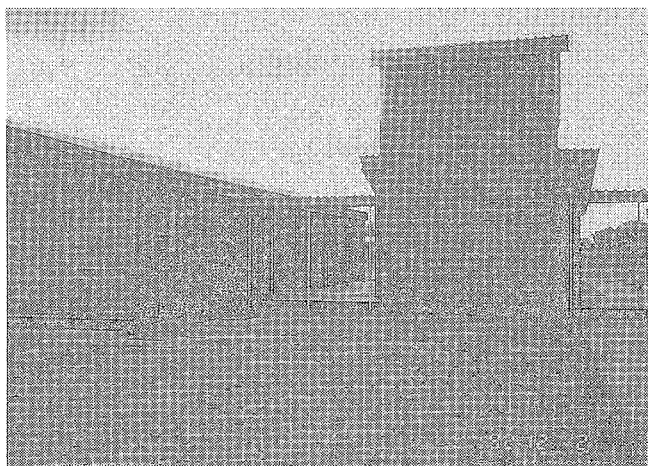






(写真13)

肥料効果が出ているケール。



(写真14)

開業を待つTogo地区の病院。



(写真15)

向学心に燃える子供達。



## トピックス

## 東マレーシア・サバ州が丸太輸出削減・凍結で最終的に政府と合意

マレーシア政府と野党政権のサバ州政府は、かねてより同州の丸太輸出問題で意見が対立していたが、今年から3年間の木材の合計輸出量を昨年実績の半分に減らし、その後は輸出を完全凍結することで、合意をみたという。

これは関係筋が4月初旬に明らかにしたもので、それによると、リム・ケンヤイクー次産業省は、パイリン・キチンガン・サバ州首席大臣とコタキナバルで会談後、サバ州は今年から96年までの丸太の年間輸出高を160万立法メートルとし、以後は輸出を凍結する旨の発言をしている。

同州は、これまで同州の主要収入源である丸太輸出の削減には終始難色を示してきていたが、ここにきて態度を軟化させたのは高まる内外の環境保護運動に妥協を強いられたからだという見方もある。

マレーシア政府は西側諸国の環境保護活動家グループから無計画な木材伐採を行っているとの非難を受けており、それもあって今年1月にはサバ州に対し、森林保存量の減少について調査を行うことを名目に丸太輸出を禁止する措置に出ていた。しかし、野党政権はこの措置を与党国民戦線（NF）による同州への政治的策略と受け止め、意見が対立していた。

上述の丸太輸出・削減措置の決定に変更がなければ、今後サバ州政府の収入は大きく減少するものと予想されるが、ヴェルナルド・ドムボック蔵相（州副首相兼任）によれば、今年度に関する限り6億2,000万マレーシアドルの税収を同州の木材産業からあげられる見込みがあり、また州政府は7月1日から製材業者に対してロイヤリティーの徴収を開始するという。

このたびの丸太の全面輸出禁止の決定は、州政府がこれまで「丸太の全面輸出禁止は州経済に深刻な影響を与える」との立場を堅持していたため、州内の木材産業各団体に大きな戸惑いを与えていることはまちがいない。サバ州華人商工会議所（SBCC）では、歳入減から州のプロジェクト遂行に障害をもたらすだろうとの懸念を示しているが、この見解はサバ州の他の多くの経済部門でも同様であろう。

丸太の全面輸出禁止が行われるのは1997年からである。それまでの間にサバ州の経済状態が大幅に悪化すれば、今回の合意事項も見直される可能性はなきにしもあらずである。その意味でサバ州経済の今後の推移が注目される。



アジア経済研究所・月例講演会

□日 時：平成5年5月20日（木）午後2時～3時30分

□テーマ：フィリピンの規制緩和政策  
—外国投資誘致を急ぐラモス政権—

□講 師：野沢 勝美氏（アジ研 動向分析部主任調査研究員）

□会 場：アジア経済研究所国際会議場  
〔地下鉄新宿線曙橋下車（A3出口左方向）徒歩3分  
または丸の内線四谷三丁目下車徒歩10分〕

※聴講料無料（申し込み先着順80名）

アジア経済研究所・広報部広報課  
〒162 東京都新宿区市谷本村町42  
電話 03 (3353) 4231 内線612  
FAX 03 (3226) 8475

国際農業機械化研究会・海外農機事情報告会

□日 時：平成5年5月21日（金）午後2時15分～

□テーマ：「ブラジル農業の可能性を探る」

□講 師：塩谷 哲夫氏（東京農工大学農学部教授）

□会 場：新農林社会議室（新農林ビル）

〔JR 神田駅西口、地下鉄丸ノ内線淡路町・千代田線大手町・都営新宿線小川町  
下車徒歩5～10分〕

□聴講料：会員 1,000円 一般 1,500円

※問い合わせ先（新農林社・国際農業機械化研究会）  
〒101 東京都千代田区神田錦町2-7  
電話 03 (3291) 3674 FAX 03 (3291) 5717

発展途上国からの産品輸入促進

## 対日輸出有望産品発掘専門家募集

ジェトロでは、  
発展途上国からの産品輸入促進を図るため  
下記の要領で「対日輸出有望産品発掘専門家」を  
公募いたします。

事業名：発展途上国対日輸出有望産品発掘専門家派遣事業

派遣期間：原則3ヵ月～6ヵ月

派遣先：アジア、中東、アフリカ、中南米等の発展途上国及び東欧諸国

待遇：派遣期間中は日本貿易振興会の委嘱による海外出張となり、  
派遣費用、委嘱料は日本貿易振興会が支給します。

活動内容：対日輸出有望産品を発掘していただくため、次の活動をお願いします。

- ①対日輸出希望企業に対する対日輸出産品開発の個別指導。
- ②見本市等における対日輸出有望産品の発掘及び関連情報の収集。
- ③必要に応じて懇談会等を通して対日輸出希望企業及び業界団体の指導。
- ④開発輸入及び技術提携の斡旋。
- ⑤対日輸出相談。

応募資格：①当該専門分野の国内マーケティングに精通していること。

②商品発掘に必要な商品知識、実務経験があること。

③発掘商品の国内販路開拓に意欲と情熱があること。

④心身共に健康で誠意を持って、本事業を実施していただけること。

⑤原則年令30才～60才前後。

⑥所属機関推薦による応募であること。

応募方法：対日輸出有望産品発掘専門家派遣登録申込書を日本貿易振興会宛に、  
郵送か直接持参下さい(上記申込書は本会国内事務所及び経済国際  
化センターで入手可能です)。

採用方法：随時専門家登録を行い面談により、採用を決定します。

お問い合わせ

日本貿易振興会(ジェトロ)

貿易開発部 促進事業課輸入促進班

〒105 東京都港区虎ノ門2-2-5 TEL 03(3505)2189

民間企業ベースで農林業投融資を支援

- (1) 本事業は、開発協力事業の推進等本邦民間企業の農林業分野における海外投資を促進することを目的として、昭和62年度から(社)海外農業開発協会が実施している農林水産省の補助事業です。
- (2) 本事業の概要及び適用事例については右の図に示したとおりで、貴社でご検討中の発展途上国における農林業開発事業についてのご相談に応じることができます。
- (3) 民間企業のメリットとなる本事業の特徴は以下のように整理できます。
- ① 海外農業開発協会のコンサル能力を利用できる。
  - ② 現地調査経費、国内総括検討などにかかる経費を節減できる。(1/2補助)
  - ③ 本事業の調査後、開発協力事業等政府の民間融資制度を利用する場合には、その事務がスムーズに進む。
- (4) 本事業による調査後、当協会は貴社のご要請に応じて、政府系融資資金の調達のお手伝いをします。
- (5) なお、平成3年度の本事業による調査実績は次のとおりです。
- ① ナイジェリアパルプ原料用造林事業調査
  - ② ソロモン諸島チップ生産・輸出事業調査
  - ③ 南米桐材生産事業調査
  - ④ マレーシア甘味資源植物生産事業調査
  - ⑤ ブラジル農園開発事業調査
  - ⑥ 中国和菓子用食材原料生産事業調査
  - ⑦ タイ萌原料豆生産事業調査

相談窓口：(社) 海外農業開発協会

第一事業部

TEL 03-3478-3508

農林水産省

国際協力課開発協力班

TEL 03-3502-8111 (内線 2776)

## 民間企業・団体

### 海外における農林業投資案件の検討

(例1)  
農作物の栽培事業の実施に当たって対象作物、対象地域等企業内における基礎的検討が必要

(例2)  
農畜作物の生産・輸出事業の実施に当たって、当該品目について栽培～加工～流通まで広範な領域についての検討が必要

(例3)  
現地関連法人から遊休地の有効利用について協力依頼を受けており、農林業開発の可能性の検討が必要

(例4)  
企業内において農業開発の方向性が定められており、詳細な事業計画の策定が必要

## 海外農林業開発協力促進事業

(農林水産省補助事業、補助率：1/2)  
社団法人 海外農業開発協会が実施

### 農林業投資案件の発掘・形成

1. 現地調査 (当該企業・団体の参加も可)
2. 国内検討 (専門家による検討)

↓  
調査報告書

#### 調査経費の負担

国内検討、現地調査及び報告書作成にかかる総経費の1/2を補助

資金調達先

JICA  
(開発協力事業)

OECD

輸銀

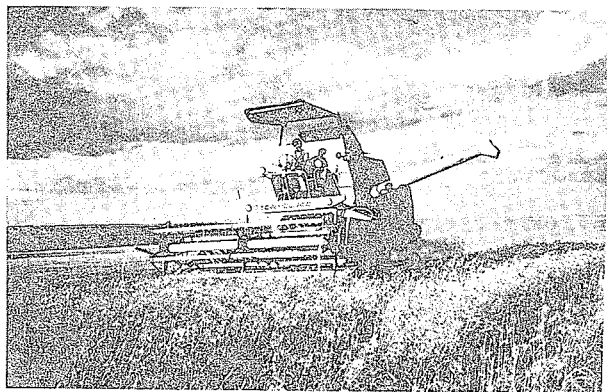
その他

総合農業雑誌

# アグロ・ナッセンテ

AGRO-NASCENTE

ブラジルで発行されている  
日本語の農業雑誌!!



南米の農業が  
次第に注目されてきました。

従来のコーヒー、カカオ、オレンジ、大豆などの他に、熱帯から温帯までの多くの作物が生産されるようになったからです。

南米の農業情報は、日本語唯一の専門誌「アグロ・ナッセンテ」誌で—

EDITORIA AGRO-NASCENTE S.A.  
R. Miguel Isasa, 536 - 1º - S/ 13, 14, 15  
CEP 05426 São Paulo Brasil

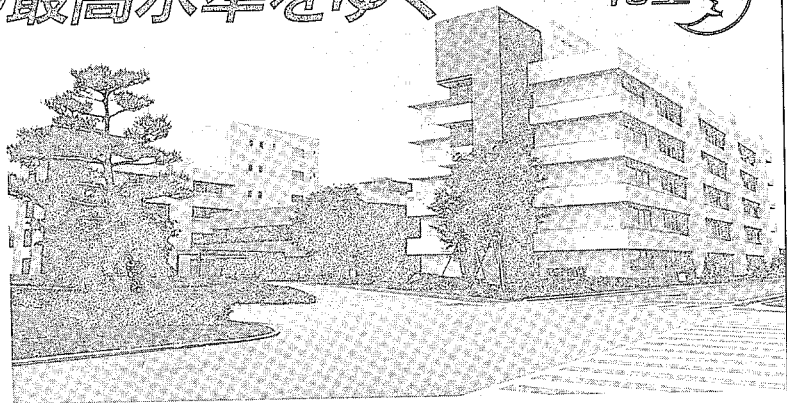
(日本でのお申込み先)  
日本農業新聞サービス・センター  
東京都台東区秋葉原2番3号  
Tel.: 3257-7134

海外農業開発 第189号 1993. 4. 15

発行人 社団法人 海外農業開発協会 橋本栄一 編集人 小林一彦  
〒107 東京都港区赤坂8-10-32 アジア会館  
TEL (03) 3478-3508 FAX (03) 3401-6048  
定価 300円 年間購読料 3,000円 送料別

印刷所 日本印刷(株)(3833)6971

# 化学工業の最高水準をゆく



栃木研究所

## ◎清潔な暮らしに…家庭用製品

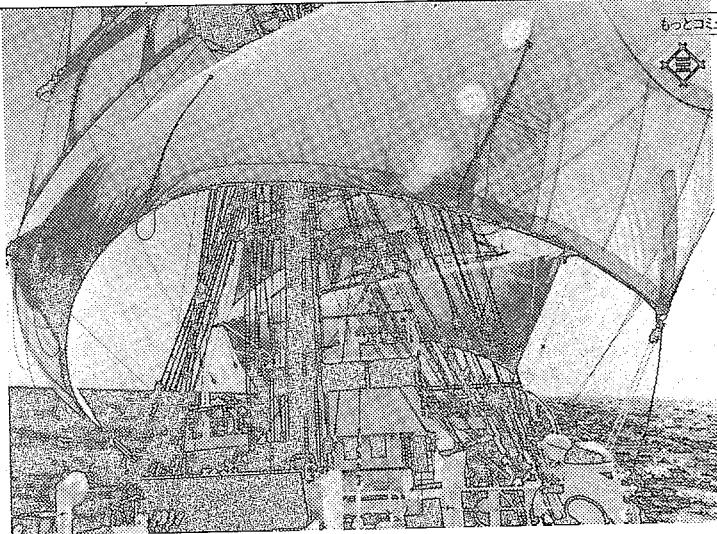
石けん、洗顔料、全身洗浄料、シャンプー、ヘアリンス、ブラッシング剤、トリートメント、ヘアスプレー、ヘアブラシ、ヘアカラー、顔・ボディ用クリーム、スキンローション、ハンドクリーム、制汗・防臭剤、衣料用洗剤、食器用洗剤、クレンジング、住居用洗剤、柔軟仕上げ剤、漂白剤、帯電防止剤、糊剤、消臭剤、殺虫剤、歯みがき、歯ブラシ、生理用品、化粧品、紙おむつ、入浴剤、肛門清浄剤

## ◎産業の発展に…工業用製品

脂肪酸、高級アルコール、脂肪アミン、脂肪エステル、グリセリン、食用油脂、界面活性剤、食品乳化剤、繊維油剤、製紙薬剤、農薬助剤、プラスチック添加剤、帯電防止剤、コンクリート減水剤、潤滑油添加剤、鉄鋼洗浄剤、圧延油、不飽和ポリエステル樹脂、ポリウレタン樹脂、複写機用トナー、フロッピーディスク

## 花王株式会社

〒103 東京都中央区日本橋茅場町1-14-10



もっとコミュニケーション、世界の心へ。

## 三井物産

# 時代を超え、国境を超えて 基礎<sup>きず</sup>もの。

さまざまな人種。いろいろな言葉。気候風土も違えば、習慣にも隔たりがある。そんな国々が多数集まった偉大なる寄り合い所帯、地球。

その地球を舞台に活動する私達商社マンの使命は、人種や国の大小、経済レベルの違いを超えて、そのひとつひとつの国々のニーズや価値観を理解して経済活動を手助けすることです。それが、信頼を確保し、繁栄を分かちあい、ともに地球の一員としての限らない未来を着実に築いていける途と考えています。

海外農業開発

第 189 号

第 3 種郵便物認可 平成 5 年 4 月

MONTHLY BULLETIN OVERSEAS AGRICULTURAL DEVELOPMENT